

高 ち ち ば な

会長挨拶

同窓会会長 丹羽 典彦



同窓生の皆様におかれましては、各界・各地でご活躍のこととお喜び申し上げますとともに、本会活動にご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

ところで、私どもの母校は、昭和33年、愛知県内の私立高校として、いち早く男女共学の普通高校として

誕生し、学校名の変遷もありましたが、校舎も名古屋市内から現在の知多半島の先端に位置する美浜町に移転して早25年目を迎えており、この間 卒業生（会員）も12,200名余を輩出されております。

こうした中で、私ども同窓会は、会員相互の親睦と母

校の発展に寄与するため、卒業年度毎に選任された幹事さんを中心として各種事業の展開に当たらせていただいております。

特に、2008年度は、母校創立50周年に当たり、美浜キャンパスで50周年記念大同窓会を開催すべく準備しているところです。又、本会の財政基盤の強化を図るため会員会費制（一人年額1,000円）を導入しております。いずれも会報本号をご覧ください。皆さんの同期の幹事さんにお問い合わせ下さい。

なお、同窓会の日常的活動につきましては、ホームページを開設しておりますのでご覧頂ければ幸いです。

今後とも、本会事業推進にご協力とご参加を下さいますようお願いいたします。

2008年度の主な事業のお知らせ、 同期会・クラス会案内

日本福祉大学付属高等学校創立50周年記念 大同窓会のお知らせ

日本福祉大学附属立花高等学校が1958年（昭和33年）に設立されてから50周年を迎えます。次ページに開催報告を載せていますが、2006年8月19日には「名古屋校舎時代卒業生の合同同期会」を開催しました。多くの先生方と同窓生が一同に集う会となり、大変ご好評をいただきました。

そして、2008年10月18日は創立50周年を記念して、お祝いの大同窓会を開催いたします。名古屋校舎時代に卒業をした同窓生の方にも、この機会に美浜キャンパスに足を運び現在の学校を見ていただけたらと思っています。たくさんの方が参加していただけるのを楽しみにしています。

開催日時 2008年10月18日(土)
午後2時～5時（予定）
会 場 日本福祉大学 文化ホール・生協ホール
愛知県知多郡美浜町奥田
(名鉄・知多新線「知多奥田」駅下車 徒歩7分)

会 費 男性5,000円 女性4,000円

*ご出席を希望される方は、高等学校事務室(裏面の連絡先)までお申し込みください。

同期会案内

1978年度卒業（第19回生）幹事 後藤、佐野、田中、坂口
後日案内送ります。

文化講演会のお知らせ

2008年5月17日（土）午後3時より、日本福祉大学文化ホールにて附属高校後援会、PTA、同窓会の三団体合同で文化講演会を開催します。高校創立50周年を記念とした企画で今話題のひと、向井亜紀さんをお招きします。当日はレギュラー生番組放映後、美浜までお越しいただく予定です。テーマは“がんと向き合う ～自分の身体と時間を大切に～”です。同窓生の皆さんにも是非ご参加いただきと思います。もちろん入場無料です。詳細は同封のチラシをご覧ください。

同期会案内

1960年度卒業（第1回生）幹事 丹羽典彦

開催日 2008年4月20日(日)
会 場 名古屋市内 ホテルルブラ王山
後日案内送ります。

同期会案内

1984年度卒業（第25回生）幹事 山崎宏文

開催日 2008年5月5日(月)
会 場 名古屋八事 Gokuraku 亭

同窓会活動報告

【2007 年度 事業活動報告】

1. 会務の運営強化
2. 委員会活動強化推進
3. 会員会費制度導入 5 カ年計画の推進
4. 会員、幹事等交流事業の推進
5. 同窓会会報の発行
6. 在校生との交流・支援事業の実施
7. 母校並びに関係支援団体との連携強化

名古屋校舎時代卒業生 合同同期会

【2006 年 8 月 19 日(土)】

母校創設 48 周年を過ぎ、この間、学校名の変更や移転もある中で、卒業生も 11,800 名となり、中でも第 1 期生から 22 期生までの名古屋校舎時代の卒業生は、団塊世代前後から中年世代を迎えており、ふと高校時代の仲間の顔を思い浮かべること少なくありません。

本会は、かつて名古屋市内で大同総会を開催したこともあり、近年では 2003 年 10 月、学園創設 50 周年並びに付属高校 45 年を記念して大同総会を企画してきましたが、必ずしも多くの参加を得ることができませんでした。

そこで、かねて要望が強かった「合同同期会」を企画し、多くの恩師をお招きして各年度の同期会を同一日時・同一会場で合同して開催しました。

今回の合同同期会には、恩師、現職の教職員、卒業生を合わせて 160 名を超える大同総会になりました。

同期会は恩師との懇談や旧友を暖める輪が幾重ともなり、閉会予定時間が大幅に延長するほど盛り上がりしました。

合同企画委員会

会計報告

【2006 年度同窓会決算報告】

《収入の部》

項 目	2006 年度予算額	2006 年度決算額	備 考
前年度繰入金	3,899,070	3,899,070	普通預金+定期預金 150 万
会費収入	1,080,000	1,080,000	入会金 (@5000×216 名)
利息収入	500	1,812	銀行利息
雑収入	0	259,529	合同同期会カンパ、往復はがき宛分、2006 年度卒業生より
合 計	4,979,570	5,240,441	

《支出の部》

項 目	2006 年度予算額	2006 年度決算額	備 考
事務費	120,000	605	* 業務費
消耗品費	50,000	0	
印刷費	50,000	0	
通信費	10,000	80	郵送料
雑費	10,000	525	残高証明書発行手数料
会議費	390,000	105,871	* 通信費、飲料費
幹事会	120,000	33,932	
常任幹事会	120,000	68,282	
委員会	150,000	3,657	
事業費	1,250,000	967,871	* 各事業運営費
文化講演会	50,000	0	
会報発行	0	0	* 2006 年度は発行しない
交流企画	100,000	26,387	ゆりのき祭
ホームページ運営	500,000	315,420	年間契約料
特別給付奨学金	100,000	100,000	積立金
合同同期会 (名古屋時代)	500,000	418,782	同窓会負担分 * 2006 年度のみ
新会員記念品	0	97,282	卒業証書ファイル寄贈 * 新設
諸費	0	100,000	同期会祝儀
備品費	80,000	75,106	パソコンリース料
予備費	1,639,570	0	
支出合計	3,479,570	1,149,453	
次年度繰越金	1,500,000	4,090,958	普通預金+定期預金 150 万
合 計	4,979,570	5,240,411	

【2007 年度同窓会予算】

《収入の部》

項 目	2007 年度予算額	備 考
前年度繰越金	4,090,958	普通預金+定期預金 150 万
入会金収入	925,000	入会金 (@5000×185 名)
会費収入	300,000	会費 (@1000×300 名)
利息収入	500	銀行利息
雑収入	1,000	
合 計	5,317,458	

《支出の部》

項 目	2007 年度予算額	備 考
事務費	120,000	* 業務費
消耗品費	50,000	印刷用紙など
印刷費	50,000	封筒印刷など
通信費	10,000	
雑費	10,000	残高証明書発行手数料など
会議費	390,000	* 会議運営費
幹事会	120,000	@40,000×3 回 (通信費、会議費、交通費)
常任幹事会	120,000	@20,000×6 回 (通信費、会議費、交通費)
委員会	150,000	各委員会 (通信費、会議費、交通費)
事業費	2,340,000	* 各事業運営費
文化講演会	10,000	運営費負担分+懇親会補助分
会報発行	1,500,000	印刷費、通信費、発送作業 * 2005 年度 131 万
交流企画	100,000	ゆりのき祭、幹事間交流ほか
ホームページ運営	350,000	年間契約料
特別給付奨学金	100,000	積立金
合同同期会 (名古屋時代)	0	* 2006 年度のみ
新会員記念品	90,000	卒業証書ファイル寄贈
同期会支援金	100,000	10 件見込み
備品費	80,000	パソコンリース料
予備費	887,458	* 普通預金残高
支出合計	3,817,458	* 執行予定
次年度繰越金	1,500,000	* 定期預金分
合 計	5,317,458	

三団体合同企画文化講演会 2007年5月19日(土)

内容 同窓会では附属高校後援会、PTA との三団体合同で毎年春に母校の発展と各団体の会員の教養を深める事業として文化講演会を開催しております。今年度は5月19日(土)日本福祉大学文化ホールに、南蔵院住職の林覚乗氏をお招きしてご講演いただきました。笑いあり、ほろりと涙を誘う話あり感動の講演でした。今後もなかなか普段の生活の中では得ることのできないひと時を皆様と過ごせるような企画をしていきたいと思ひます。多数のご参加をいただける様に、同窓会ホームページ等でご案内していきます。

ゆりのき祭開催に同窓会5年目参加 2007年9月30日(日)

内容 同窓会の知名度アップと年代を超えた交流を目指し、同窓会ルームの運営を致しました。多くの会員の協力を受け、前日から部屋の飾り付けをしたり、もち米の準備をしたり、結構大変だったんですよ。当日に用意した400食のぜんざいはどんどん無くなり、2時過ぎには完食となりました。前日から手伝ってくれた仲間、当日応援に来てくれたみなさん、ありがとう。こんな素敵な同窓会を築いてくれた母校に感謝。

次回は、同窓生のみなさん、ぜひ見に来てください。
(交流企画委員会)



ホームページ委員会の取組みについて

2007度は、各委員会全体の活動や個人の方々の書き込み等によるHPでした。

2008年度に向けては各委員会の方々と深く連携して、同窓会全体の動きと各同期会の活動状況等、同窓生、恩師の方々の多方面での活躍などの把握に努めて、情報発信できるよう頑張っていきたいと思ひます。

<http://www.dosokai.ne.jp/tachibana/>にアクセスしてみてください。

「不正な電話での問い合わせ」について

学校に昨年度卒業生の保護者の方より問い合わせの電話がありました。

話しによると「日本福祉大学附属高等学校の事務の〇〇です。」と名乗り、卒業後の進学・就職状況や住所・電話番号などの連絡先を聞かれたそうです。現在のところ、本校ではこのような調査は行っておりません。問い合わせがありましても応じないようお願いいたします。

なお、ホームページなどを利用して情報提供をしたいと思ひますので、こういった問い合わせがありましたら、高校までご一報下さい。
(ホームページ運営・情報管理委員会)



同期会報告

2002年度卒業(第43回生)幹事 大久利勇輝

開催日 2007年1月6日(土)

会場 福祉大生協

参加者 120名

同期会報告

1974年度卒業(第15回生)幹事 古澤美代子、水野英子

開催日 2007年11月10日(土)

会場 名古屋駅前 マリオットアソシア名古屋

参加者 70名

同期会報告

1983年度卒業(第24回生)幹事 藤村浩二

開催日 2008年2月9日(土)

会場 名古屋金山 二十丸

参加者 15名

予定や実施報告等がありましたら、
ホームページや高校まで
情報をお寄せ下さい。

同窓生のみなさん 会費の納入にご協力下さい

昨年の5月に開催した同窓会幹事会で、会員会費（一人 年 1,000 円）制の導入を決定しました。同時に、同期会等の開催費の助成事業も実施します。本号に同封した振込用紙（納入年度は各自記入）にて納入下さい。

1.【会員会費増強 5 ヶ年計画】の策定について

本会の自立的運営基盤、とりわけ会報の安定的発行財源を確保するとともに、母校のサークル活動支援や特別奨学金制度の拡充をめざして、会則に定める会員の【年会費】制を具体化するため、2007 年度を初年度とする 5 年計画を定める。

- 1 会費の額は、1 人 1,000 円とする。
- 2 会費の納入方法は、原則として郵便口座振り替とする。但し、振り込み手数料は本会負担とする。なお、5 年分の一括納入を推奨する
- 3 この計画を推進するには、すべての常任幹事・幹事一人ひとりの同窓会活動への使命感なしには実現できないものである。
- 4 5 ヶ年の会員会費増強計画の内容
 - (1) 5 年後の会員総数は 13,000 名と想定され、期間内にその 10 % (1,300 名) の会員会費納入を目指すものとする。
 - (2) 期間中の各年度において、会報やホームページ、あるいは同期会等の開催時に広報・普及を図るものとする。
 - (3) 各年度の目標と達成
 - 1) 2007 年度（計画初年度）の 300 名とし、常任幹事一人当たり 5 名、幹事一人当たり 2 名の確保に努めるものとする。なお、2 年次以降も同等の取り組みを強化していくこととする。
 - 2) 2008 年度（2 年次）は、母校創立 50 周年を記念して大全卒業会を企画（300 名規模を予定）し、実行委員を中心に参加者を含めて 600 名を確保する。
 - 3) 第 3 年次から最終年次は、それぞれ 800 名、1,000 名、1,300 名を目標とする。
 - 4) 進捗状況等により 3 年次に計画の見直しをする。
 - (4) この計画を担保するため、各年度、会員交流事業を企画するとともに、本年度から実施する【同期会等開催助成事業】の普及に努めるとともに一層の強化を図っていくこととする。
 - (5) この計画の推進にあたり、高校、現職教職員及び退職恩師等広く関係者の理解と協力を要請する必要がある。

2. 同期会等開催費助成事業の概要

本会の中心的活動の一つである卒業同期会等の開催を促進するために、【同期会等開催助成】を開始する。なおクラス会やサークル OB・OG 会の開催についてもこれを準用する。

- 1 申請者
本部に登録された各卒業年度の幹事は、会長宛に【同期会等助成申請書】（別紙）を提出する。なお、同期会・クラス会の開催にあっては宛名シール（同窓会名簿による）の発行を希望するときはその旨を申し出る。
- 2 助成金の交付
会長は、申請の事実を確認し幹事宛に各年度一回に限り、次の金額を交付する。
 - (1) 同期会の開催にあっては、10,000 円。
 - (2) クラス会及びサークル OB・OG 会にあっては 3,000 円。
- 3 その他
 - (1) 助成金の交付を受けた幹事は、所定の報告書を提出する。
 - (2) 参加者に対し同窓会本部が要請する「寄付金のお願い」を周知していただくこととする。
 - (3) 本部役員に出席の要請があるときはその旨申し出てください。常任幹事で調整します。

● 恩 師 は 今 ●



青春

出口 壽

同窓生のみなさま方、お変わりなくご活躍のことと拝察いたします。私は、1964年度～1974年度までの間、山里校舎で英語教員として過ごさせていただきました。勿論、最終年度は美浜校舎の移転が決まり、東山のグラウンドにてプレハブ仮校舎も体験させていただきました。学校を卒業して初めての教壇生活でありましたので、何かにつけ無我夢中でありました。爾来、33年の星霜を閲する間、当時出会った生徒のみなさまとの若き魂のふれあいは今日の私の教員としての礎を築きあげてくれました。そういう意味では、言葉の適・不適は別としまして、私にとりましては同窓生の皆様は学校の貴重な資産であると考えています。

詩人、サムエル・ウルマンが『青春』の冒頭で、「青春とは人生のある期間ではなく心の持ちかたを言う」と述べています。年齢にかかわらず、頭を高く上げ希望の波をとらえている限り人は青春であることを忘れないで。



しばらく現役続けます

柴田 順三

2007年3月末で、付属高校を定年退職しました。36年半に及ぶ勤務でしたが、この間、同窓生の皆さんには大変お世話になりました。何とか無事に勤め上げることができたのも、ひとえに皆様のおかげです。ありがとうございました。

4月から、名古屋芸術大学で、非常勤講師をしています。いわば「パート労働」ですが、まだしばらくは現役です。教職科目を担当しています。高校の授業とは一味違う内容ですので、講義準備には結構苦労しています。しかし、これから教師になろうと目指している人たちが受講生なので、やりがいもいっぱいあります。教育制度論という科目を講義するために、改めて最近の教育政策を学習していますが、「教育基本法」の改定、公立小・中での学校選択制の導入、「全国一斉学力テスト」や「教員免許更新制」の実施など、必ずしも教育の現状をよくするとは思えない「教育改革」が次々と登場しており、日本の明日の教育がとても心配です。子どもたちが生き生きと学び成長できる学校や教育をどうしたら作ることができるのか、これからも考え続けていきたいと思っています。

同 窓 生 の 活 躍



1997年度（第18回生）

日本福祉大学付属立花高等学校卒業

水野 真人

作曲家

同窓会の皆様、お元気でしょうか。私は1977年度旧3年F組の者です。現在は作曲家としての人生を歩んでおります。作曲家と申しますと、一般の方々からは「優雅な職業」だと思われる場合がありますが、現実にはそうではございません。忙しい時には連日午前3時過ぎまで仕事をしなければならないこともありますし、反対に、何週間にも渡って仕事が途絶えることもあるという不安定な職業です。それに、「仕事の作品」では自分の意思とは全く異なった作風を手がけなければならないことのほうが多く、作曲にあたっては常に自分の感情を切り離して作業を進めなければなりません。私の「個人的希望」はクラシック系オリジナルオーケストラ作品を普及させることなのですが、「仕事の作曲」のほとんどがポピュラー音楽です。主に、映画、DVD、企業の宣伝用ビデオのBGMなどがそれらに該当します。しかし、将来的には自分の本望であるところのクラシック系オリジナルオーケストラ作品によって生命をつなぐ必要性を感じています。（それらの作品は「仕事としての作曲」の合間や途切れ期間を利用してすでにたくさん作りました）。近年は、その志望への道を切り開くために、多くの憂いと苦難を強いられる日々を送っております。しかし、憂いと真剣に向き合うという事は、成熟した優しい人、そして優れた人を育てる事につながると自分に強く言い聞かせ、これからは生命を継続してゆかなければならないと思っております。人の憂いと優しさ、芸術は、人生は、重い。いつもそのように感じております。



1992年度（第33回生）

日本福祉大学付属高等学校卒業

大脇 聡

プロ和太鼓集団 志多ら

私は現在、プロの和太鼓集団「志多ら」（しだら）の一員として、全国各地で演奏活動しています。この高校で和太鼓部「楽鼓」（らっこ）に入部し、和太鼓に出会った事で、私の太鼓打ちとしての人生がスタートしました。楽鼓時代の活動は、学内だけにとどまらず、多くの地域の方々と、共にイベントをしたり、高校生としては、すごくたくさんの一言ではいい表せられない、体験をさせていただきました。この3年間がなければ、今の私はないと思います。志多らと出会ったのも、高校の時でした。和太鼓には、不思議な魅力があります。一打一打の響きの中に、生命の力があふれています。私は、その一打一打に、思いを込めて、太鼓と向かいあっていこうと思います。そして、その音を、生きる力を多くの方々に伝えられたら、うれしく思います。そんな和太鼓に出会わせてくれた、この高校、先生方、友達すべてに感謝しています。是非、私の演奏を観にいらして下さい。今年は、全国ツアーで、3月には武豊で、6月は、長野、蒲郡、7月は、四日市、東京、富山、8月は、石川、9月は、小牧での公演を予定しています。3月から5月には、アメリカツアーもあります。詳しい事は、ホームページ www.shidara.co.jp を見て下さい。現在志多らには、私を含め、3人の付属高校OBが活躍中です。私は、付属高校OBであることを誇りに今後の活動にいかしていきたいと思っています。

高校の近況報告

校長挨拶



学校長
福岡 猛志

なんとなく世情落ち着かず、この国はこれからどうなっていくのであろうかと案じられることの多い昨今ですが、同窓生のみなさんにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

皆さんの母校も、揺れ動く教育情勢、厳しさを増す私学情勢に抗して、存在するに値する高校であり続けるための努力を重ねております。新年度は、高等学校創立50周年という節目を迎えるとともに、今後の展望を切り開くための当面の改革を目指した「短期計画」の完成年次に当たります。さいわい、兄貴分に当たる日本福祉大学が、新年度より6学部9学科体制に改組され、日本の福祉社会を切り開くパイオニアとしての役割をいっそう発展させるとともに、アジアを中心として国際的な連携を飛躍的に拡大する新たな体制を強化させました。共通の建学の精神と教育理念に基づいて、大学と高等学校とが共同で人材育成に取り組む「青年期一貫教育」という基本方針を堅持しつつ、ともに前進していく所存です。

みなさんの忌憚のないご批判とともに、厚いご支援を心よりお願いする次第です。

在職教職員紹介

【2007年度教員名簿】

青木 律子	英語
浅生 京子	英語
石崎 摂	国語
伊藤 克之	国語
今田 和弘	地歴・公民
岩橋 由美子	養護
岩本 憲之	英語
岡部 道宣	数学
尾之内 こすも	国語
加賀 敏美	数学
金丸 典生	英語
神谷 誠一	理科
神谷 貴史	保健・体育
河合 理恵子	理科
近藤 美穂子	地歴・公民
榊原 保子	国語
重藤 信夫	英語
篠原 有加	英語
清木 敦史	理科

祖父江 奈都	保健・体育
竹内 智司	保健・体育
田中 京平	地歴・公民
谷合 真由美	国語
崔 知華	英語
辻坂 英雄	地歴・公民
土屋 貴則	数学
長谷川 友紀	英語
半田 裕嗣	数学
日高 幸浩	数学
松永 太志	地歴・公民
松久 直史	地歴・公民
宮東 靖浩	理科
宮本 純	理科
向井 直紀	地歴・公民
森 あゆみ	国語
山口 喜久枝	国語
山田 育世	情報

【2007年度職員名簿】

北島 明治	校長業務補佐
平松 広次	事務長
朝比奈 園美	人事・教務

金海 和江	事務
山元 洋子	事務
相浦 香代子	図書(司書)

2005、2006年度をもって10名の先生が退職されました

佐藤 耕三	国語
松下 悠起	保健・体育
武井 香織	国語
柴田 順三	地歴・公民
堀 裕	保健・体育

安武 正浩	英語
清水 美貴	国語
井上 真紀子	保健・体育
大井 佐織	地歴・公民
竹島 陽子	数学

スタートしたコース制

2007年度から新しい教育課程がスタートしました。1・2年生の授業はこの新しい教育課程で行われています。特徴は「文理」「福祉社会」「国際・英語」の3つの「コース」を設定したことです。

本校の「コース制カリキュラム」は3つのコースの仲間が集う「ミックスホームルーム」を基礎にした共通必修のホームルーム授業と、2年では8単位、3年では16単位のコース授業が設定されていることです。また1年生では生き方や進路をじっくり考える「キャリア開発」や「はじめての福祉」が授業に組み込まれ、進路や生き方をじっくり考えて2年生からのコースを選択できることです。

そこでコース制初年度の現2年生の諸君がコース選択をどう考えたかを高校パンフレットから紹介します。

文理コース前野智文君『私はお年寄りの世話をするのが好きで、将来はその思いを仕事に生かしたいと考えて福祉大付属高校に入学しました。そして、高校での勉強を通してリハビリという仕事に興味を持ち、その道に進むために文理コースの理系を選択しました。』

福祉社会コース椎葉梢さん『私は福祉大付属高校に夢と希望を持って入学しました。その夢とは、多くの人の心を救える人になりたい、心に「闇」を持ち苦しんでいる人を支えていける人になりたいというもの。福祉社会コースを選択したのは、そうした自分に合っていると考えたからです。』

国際・英語コースの松田純佳さん『将来は福祉関係の仕事に就きたいと思い、福祉の原点から学びたいと福祉大学付属高校に入学。ホームヘルパー2級の資格を取った私は実習で介護する側、される側両方に外国の方が増えている現状を知りました。そして、言語や文化の違いからくる不安やトラブルを解決できたらと、国際・英語コースを選択しました。』

それぞれの諸君が新しいコースで「なりたい自分」を実現しようと頑張っています。

教務部長 神谷 誠一

進路指導の現状と進路決定状況

今年度本校では3つの大きなとりくみに着手しました。1つは付属推薦の新制度の立ち上げです。新制度は、これまでの「高校が推薦し大学が判定する」方式から、「高校と大学が共同して目的意識と学力を育て、大学の学習に必要な力を形成する」ものです。具体的にはこれまでの小論文試験に代わり、高校と大学の教員が話し合い、共同で問題を作成（共同作問）し、それを実力試験として、それぞれの学年の終了時（2月）に実施（但し、3年は1、2学期に各1回）し、推薦判定資料とします。実力試験以外に高校3年間の日常の学習の結果（評定平均値）も判定要素となります。またボランティアなど自主活動も判定要素に加えます。すでにご存知かと思いますが、今春から福祉大学は3つの新しい学部が誕生します。（子ども発達学部・健康科学部・国際福祉開発学部）本校生徒諸君にとって福祉大学への新しい魅力が付け加わったと言えます。

2つめのとりくみは2年次から通常のクラスを基にしたコース制の導入です。それぞれの進路目標や大学入学後の教育に対応するために文理・福祉社会・国際英語の3コースを開設しました。どのコースも福祉大学のそれぞれの学部につながるようになっています。

3つめのとりくみは「キャリア教育」です。「大学全入時代」とも言われる今日、大学に入ったものの「こんなはずではなかった」という不適応・不本意入学による大学中退が増加しつつあります。ある調査によると大学入学者の3割が「自分の思っていたことと違って」と語っています。そこで今求められるのが、「キャリア教育」です。これは、若者が社会で自分を生かす生き方をしていくためのサポートで、学校と社会を結びつけるものです。具体的には、この中で外部の様々な方をお招きし、お話しいただいたり、進路を考える調べ学習などにとりくんでいます。このように進路指導は変化の激しい現代をたくましく生きるために、従来のともすれば、偏差値に頼りがちな指導から、将来の生き方を考える指導へと変わりつつあります。

また、3年生はチューター制度を採用入れ、国公立大学や難関私大にチャレンジする諸君を応援しています。具体的にはそれらの大学を目指す個々の生徒には担任や進路指導部教員がチューターとなり、受験アドバイスや進路相談を行っています。その結果難関私大に合格した生徒も出ています。まだ十分な成果をあげるまでにはいたっていませんが、今後さらに指導力を磨いていきたいと思っています。

進路指導部長 岩本 憲之

*2007年度卒業生の進路（2月末現在）183名中		*主な合格大学（福祉大学以外の）	
四年制大学	100名（54.6%）※内、福祉大学69名（37.7%）	愛知学院大学、愛知淑徳大学、愛知東邦大学、愛知みずほ大学、金城学院大学、	
短大	16名（8.7%）	中部大学、中京大学、中京女子大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名	
専門学校	42名（23.0%）	古屋芸術大学、名古屋経済大学、名古屋女子大学、名古屋文理大学、南山大学、	
就職	15名（8.2%）	藤田保健衛生大学、岐阜女子大学、日本体育大学	
未定・その他	10名（5.5%）		

生徒の活躍



同窓会のみなさん、こんにちは。今回は日本福祉大学主催福祉機器アイデアコンテストに入賞した生徒諸君のことを報告します。このコンテストは今年で4回目になりますが、昨年度に引き続き、本校の生徒が入賞をしています。「誰もが快適に暮らせるための工夫を」という自由課題と「すべての人にあそぶ楽しさを」という特別課題に3年生の諸君が挑戦をしました。自由課題では最優秀賞に田宮君（カンタン！シップ！）特別賞に岩崎君（もっと急ぐ非常口）、特別課題では優秀賞に原さん（音と光で遊ぼう）が入賞しました。田宮君の作品は日常自分たちが使っている修正テープから発想を得、孫の手と修正テープ状のシップを合体した作品です。「実用化されたら、真っ先に私が買うよ。」校長先生のお墨付きも戴きました。

生活指導部長 山口喜久枝

2007年度 生徒募集

この春の新入生は213名でした。推薦入学者は昨年比で61名増え、知多地域からの推薦入学者は133名となり、この15年間で最高数値となりました。しかし、一般入試での入学者は前年度－24名の42名と減少してしまいました。これは、今春より公立高校の学校群が再編され、共通校が登場したことにより、受験公立高校の組み合わせパターンが拡大されたことも大きな原因と考えられます。また、名古屋からの入学者も年々減少していることも心配される所です。その一方、「2人に1人」が校内推薦で進学をする日本福祉大学に、来春より3つの新学部が誕生し6学部9学科の大学になります。そしてそれらの学部につながる3コースが付属高校に設置され、多様な進路も保障されるシステムが創られたことなど、付属高校の教育改革にも関心が寄せられています。また「自由・創造・活発・連帯」の校風のもと、伝統的な生徒の生徒会活動・自主活動も旺盛に展開されています。卒業生のみなさま、ご子弟の進学先として、是非母校をお勧め下さい。本校は、子どもの成長と子育ての苦勞を保護者の皆さんと一緒に共感し続ける「心の距離の近い学校」であり続けています。

渉外部長 今田 和弘

今春の地域別入学者数

	推薦入学者	一般入学者	内 訳		合 計
			男子	女子	
知多	133	31	60	104	164
名古屋	16	7	10	13	23
尾張	11	3	7	7	14
三河	11	0	2	9	11
県外	0	1	0	1	1
合計	171	42	79	134	213



役員（常任幹事）紹介

会 長	丹羽 典彦	1960	常任幹事	福岡 正之	1971	常任幹事	深谷 愛美	2002
副 会 長	福井 政浩	1983		富岡 隆治	1983		今井 佐栄	2003
	小林 純穂	1987		吉村 和幸	1984	監 事	水野 孝安	1964
会 計	西村 容子	1978		古川 裕資	1984		小塚 光夫	1968
	朝比奈園美	事務職員		岩田佳奈子	1993	顧 問	辻坂 英雄	教頭
				布目 達彦	1996		平松 広次	事務長

※数字は卒業年度

幹事（世話人）紹介

* 役員 （ ） 世話人

回生	卒業年数 (和暦)	卒業年数 (西暦)					回生	卒業年数 (和暦)	卒業年数 (西暦)				
1	昭和35	1960	(佐藤 友彦)	*丹羽 典彦			28	62	1987	*小林 純穂			
2	36	1961	桜井 敏寿	中原美恵子			29	63	1988	渡邊真理子			
3	37	1962	(池田 修三)				30	平成元	1989	仲野 智	久田 里子		
4	38	1963	山東 克彦				31	2	1990	瀬尾 隆之	中野 ゆか		
5	39	1964	吉田 孝仁	水野 義広	*水野 孝安		32	3	1991	木俣 聖佳			
6	40	1965	武田 晃代	島田ひろ子			33	4	1992	富田 達郎	竹川 寅之		
7	41	1966					34	5	1993	*岩田佳奈子	西 将志	鈴木 聡子	
8	42	1967					35	6	1994	白井 雅樹	(榎戸 幸子)		
9	43	1968	大久利一男	*小塚 光夫			36	7	1995	佐藤かおり	鶴長 泰輔		
10	44	1969					37	8	1996	*布目 達彦			
11	45	1970					38	9	1997	尾之内 童	白石 優理	長谷川純子	宮川 鮎美
12	46	1971	河村 昇	*福岡 正之						寺澤 由紀			
13	47	1972					39	10	1998	河内 美和			
14	48	1973					40	11	1999	吉口 史晃			
15	49	1974	水野 英子	古澤美代子			41	12	2000	鶴飼 健史	御手洗 旭		
16	50	1975	山口 善幸				42	13	2001	江ノ上敦士	武田 恵子	廣瀬 美子	
17	51	1976	平瀬 哲則				43	14	2002	大久利勇輝	山崎由香里	佐々木諒真	榎本 千香
18	52	1977	中村 勝彦	鬼頭 和則	青山 智弘	高木 真澄				長坂 創太	久野 達也	堀田 瑞樹	*深谷 愛美
19	53	1978	片山 隆	*西村 容子	桂 佳男					有馬 将太	*今井 佐栄	神野 由貴	田島由佳子
20	54	1979	高垣 充				44	15	2003	山下さなえ	野々垣聡子	鈴木 警史	小野 七絵
21	55	1980	寛 重和	菊地 淳子						内田 愛	小川 友子	宮澤 枝里	根崎 芳行
22	56	1981	岡本 吉治							小牧 直哉	相羽 優香	小山 奈未	深谷 典子
23	57	1982	川瀬 克幸	(渡辺 美雪)			45	16	2004	清水 大介	村上 辰之	山下 雄規	中平 猛
24	58	1983	*福井 政浩	榊原 京子	樋口 吉己	*富岡 隆治				北浦 稔	塚田 康人	水谷佳那子	菊池 宏晃
25	59	1984	*古川 裕資	大井智穂子	*吉村 和幸		46	17	2005	渡辺 拓也	舟橋 佑希		
26	60	1985	福地 充洋							永田 悦子	生田 卓也	竹内 甫	大河内 恵
27	61	1986	松田 洋幸				47	18	2006	小島 祐助	浜野 由莉		

〈お知らせ〉 あなたも、各委員会活動に参加しませんか！詳しくは高校まで。

☆☆編集後記☆☆

皆様の、ご協力により第13号会報をお届けすることができました。
今回の会報には、お伝えしたい事がたくさんあります。
私達は、社会の一員となってから様々な体験をしてきました。お互いが共有できる、「機会」そんな器がある大切な同窓会を、数多く開ける事が大切では、ないでしょうか。
また、後輩達の活躍を応援できる同窓会にしたいと考えます。ご協力をお願い致します。
編集にご協力下さいました方々に感謝いたします。ありがとうございました。

常任幹事会会報委員長 吉村 和幸

日本福祉大学附属高等学校
同 窓 会

〒470-3233 愛知県知多郡美浜町奥田字中之谷 2-1
TEL (0569) 87-2311 FAX (0569) 87-2312
<http://www.dosokai.ne.jp/tachibana/>